



# 三笠だより

舞鶴市立三笠小学校  
学校だより 5月号  
令和8年4月30日発行

## 小学校生活のはじまりに ～架け橋期の1年生～

「架け橋」という言葉は、どこかやわらかく、心に響く好きな言葉です。「祖国と日本の架け橋になりたいです。」こんな言葉を耳にすると、何かと何かを結びつける役目を担うことの大切さ、そしてその尊さを強く感じます。

さて、1年生が入学してから、早くも1か月が過ぎようとしています。子どもたちは少しずつ小学校生活に慣れ、それぞれの持ち味を発揮しながら、毎日一生懸命がんばっています。

先日、1年生が学校探検で校長室を訪れました。興味津々の子どもたちからは、「これは何ですか。」「どうしてこれが飾ってあるんですか。」と、次々に質問が飛び出します。やがて、歴代校長先生の写真に気づき、「この写真は誰ですか。」という質問が出ました。よし来た、と心の中で思いながら、「誰だと思う?」と尋ねてみると、「今までの校長先生かな。」「高峰校長先生は何人目かな。」という声が返ってきました。すると、子どもたちは写真を数え始めます。「1、2、3、4……26。」「あっ、校長先生は27人目だ!」その通り。数も、しっかり数えられています。1年生の算数の教科書では、まず10までの数を学びます。数の概念を身につける大切な学習です。しかし、子どもたちはこれまでの体験や経験を通して、もっとたくさんの数を数える力もすでに身に付けているのです。こうした事実を知った上で算数を教えるのと、知らずに教えるのとでは、指導や声かけのあり方も変わってきます。

また別の日には、家庭科室へ探検に行ったようです。1年教室に戻ってきた子どもたちは、気づいたことを次々と発表します。「ガスコンロがあった。」「消火器があった。」「ふきんやお皿もあったよ。」本当によく見えています。そこへ担任の先生のナイスな質問。「この部屋、何をするとところだろうね。」子どもたちは考え始めます。「野菜の実験をするところかな。」「給食の山内先生が仕事をやる部屋かも。」「どうやって答えを見つけるのだろうと、こちらにも楽しみにしていると、ちょうどチャイムが鳴り、いったん学習は終わりました。そして次の時間。ある子が、「山内先生に聞いてきた。あの部屋は、5・6年生が勉強で料理をする部屋なんやって。」と教えてくれました。答えを、自分たちの力で見つけてきたのです。答えを教えることは簡単です。しかし、どうすれば答えにたどり着けるのかを考え、自分で見つけ出したときの達成感は、その子の中に確かな力として蓄えられていくことでしょう。

このように、園で多くの学びや育ちを積み重ねてきた子どもたちが、小学校という新しい環境に変わっても主体性を発揮し、自分らしさを大切にしながら自己表現していけるように、全国的に5歳児（年長）から1年生までの2年間を「架け橋期」と位置づけています。これは、幼児期の学びと小学校の学びをつなぎ、生涯にわたる学びと生活の基盤をつくる、特に大切な時期です。この「架け橋期」の大切さを、保護者や地域の皆様とも共有し、子どもが自分でできることを大人が奪ってしまうのではなく、試行錯誤し、達成感を味わうプロセスを大切にしていきたいものです。

5月はいよいよ、子どもたちが担任の先生や学年にも慣れ、教育活動がより充実していく時期を迎えます。子どもたちが健康で安全な学校生活を送れますよう、引き続き、保護者の皆様、地域の皆様の御支援・御協力をよろしくお願いいたします。

校長 高峰 真実 教職員一同